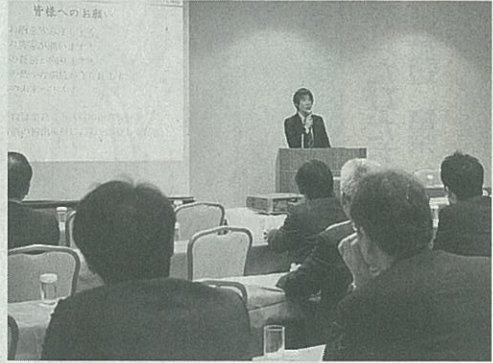


県産日本酒輸出 今後の課題解説

新潟でセミナー



県産日本酒の輸出をテーマにしたセミナー＝13日、新潟市中央区

15、16日に開かれる「にいがた酒の陣」を前に、「新潟清酒の国際展開」をテーマにしたセミナーが13日、新潟市中央区で開かれた。尾畑酒造(佐渡市)社長で、県酒造組合の海外戦略担当を務める平島健氏が輸出量増加の背景や今後の課題を解説した。

セミナーは環日本海経済研究所(ERINA)が主催。約70人が参加した。

組合によると、2012年の本県の日本酒輸出量は前年比17・3%増の1375キリと過去最高を更新し、02年に比べて約6倍になった。背景について平島氏は、和食の世界進出やアジア圏での富裕層拡大のほか、日本酒の食中酒としての魅力を挙げた。

一方、海外で飲まれる清酒の多くが外国産であると説明。組合全体で海外の展示会に参加したことに触れ、業界全体での啓発活動を続けることや、日本酒の

国際的な定義を定めることの必要性を強調した。また、輸出量増加によって「酒米需要の拡大や酒蔵ツーリズムなど国内の地域振興にもつながる」と語った。